

いもう 葦毛通信



カキラン

2024年7月25日
豊橋市文化財センター
豊橋市松葉町三丁目1
TEL: 0532-56-6060

No. 158

1、葦毛湿原中心部の動物調査(2023年7月から2024年6月)

葦毛湿原では植物に対する動物の食害対策として、2023年度に監視のために赤外線センサーカメラを5台設置しました。途中で故障して撮影できなくなったカメラもありますが、2023年7月から2024年6月までの1年間のデータがまとまったので報告します。

葦毛湿原中心部の5か所にセンサーカメラ(No.1~5)を設置しました。全体の傾向は表1のとおりです。

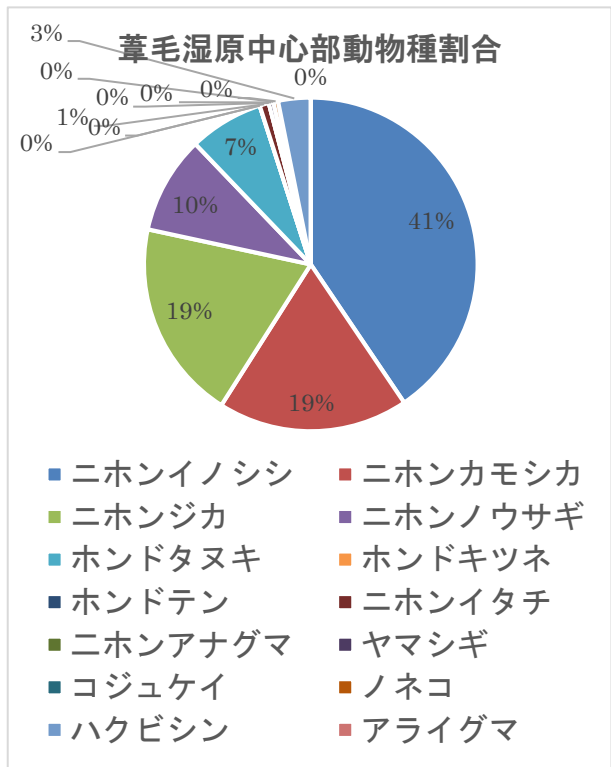
動物の種類としては、ニホンイノシシが最も多く、ニホンカモシカとニホンジカが同程度写っています。この3種で全体の80%近くを占めており、かつ、これらによる食害や攪乱の被害が最も深刻です。次に多いのはニホンノウサギとホンドタヌキで、ニホンノウサギの食痕は確認していましたが、特に問題になるほどではありませんでした。

時期的な特徴としては、ニホンイノシシは7・8月に集中し、ニホンカモシカとニホンジカは同じ傾向を示しており、4月から10月に集中するようです(次頁図1参照)。また、ニホンノウサギとホンドタヌキには明瞭な傾向は無いようです。

全体の傾向としては以上ですが、センサーカメラを設置した場所の条件の違いが動物種の違いに反映しているようです。

表1 葦毛湿原指定地内動物集計表(No.1~5集計)

番号	種名	総数	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
1	ニホンイノシシ	90	4	26	39	12	4	1	2	0	0	2	0	0
2	ニホンカモシカ	41	5	6	5	7	0	1	0	1	0	5	7	4
3	ニホンジカ	43	4	12	8	3	0	0	0	0	0	6	2	8
4	ニホンノウサギ	21	1	1	5	1	0	2	1	0	0	2	6	2
5	ホンドタヌキ	16	2	4	2	0	0	3	1	3	0	1	0	0
6	ホンドキツネ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7	ホンドテン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8	ニホンイタチ	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
9	ニホンアナグマ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10	ヤマシギ	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
11	コジュケイ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12	ノネコ	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
13	ハクビシン	7	1	0	3	1	2	0	0	0	0	0	0	0
14	アライグマ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	222	17	49	62	26	7	8	4	4	0	16	15	14



1) No. 1 (L地点北)

No. 1は三の沢下流のノカンゾウが多く自生していた地点を監視できるように設置しました。2023年4月から12月まで撮影できましたが、カメラが壊れ、これ以後撮影できなくなりました。4月にはニホンジカとニホンカモシカが写り、ノカンゾウを食べている可能性が高くなったので、6月にシカ除けネットで囲いました(葦毛通信 No. 143 参照)。これ以後、ネット内に入る動物は無く、食害対策としては十分機能しているようです。

2) No. 2 (J地点西)

No. 2はJ地点に接する指定地外の木に設置しました。ここは、森だったところを伐採して一部は湿地に戻ったところですが、明るい草地が広がる環境になり、動物の通り道になっているようです。2023年7月から2024年2月まで撮影できましたが、カメラが壊れ、これ以後撮影できなくなりました。

ここでは、ニホンイノシシ(10回)、ニホンカモシカ(6回)、ニホンジカ(9回)、ニホンノウサギ(3回)、ホンドタヌキ(6回)が撮影されました。木を伐採したところより上流は下草が少ない照葉樹の暗い森になっており、動物が通りやすくなっているようです。

3) No. 3. (一の沢: S地点東)

No. 3は一の沢の上流部に設置しました。ここも森だったところを伐採・伐根しましたが、一の沢沿いは良好な湿地に戻っています。一の沢上流部は国有林との地境になっており、通路になっていますが、動物も利用していると予想してセンサーカメラを設置しました。2023年7月から2024年6月まで撮影でき、現在も撮影を継続しています。

ここでは、ニホンイノシシ(8回)、ニホンカモシカ(31回)、ニホンジカ(7回)、ニホンノウサギ(6回)、ホンドタヌキ(10回)、ハクビシン(6回)、ニホンイタチ(2回)が撮影されました。地境より北側(下流側)は一の沢湿地を中心に広く草地になっており、沢に向かっておりていくニホンカモシカやニホンジカが写っていました。

特に、ニホンカモシカは一の沢では日中何度も目撃されています。一の沢の中腹あたりで、座って草を食んでいるところも見たことがあり、反芻しているようでした。昨年度の植生回復作業の時には、ニホンカモシカの糞も見えており、頻繁に訪れているようです。

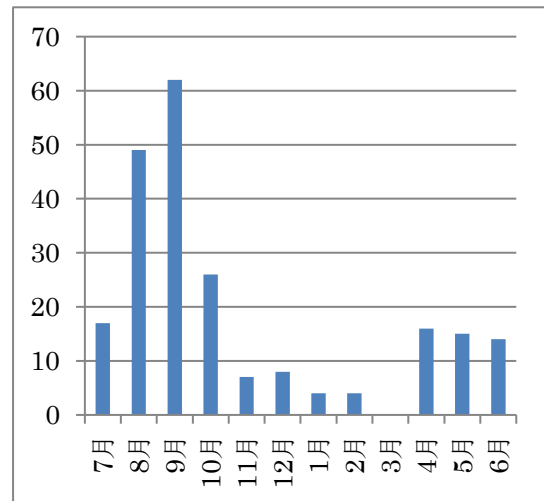
一の沢は、サワギキョウがわずかに残っていたところですが、サワギキョウの群落は大きくなり、湿原内で分布を広げていましたが、昨年の秋にはサワギキョウの中心群落の広範囲に食害があることが確認できました。センサーカメラの映像にサワギキョウを食べているところが写ったわけではありませんが、ニホンカモシカとニホンジカによる食害の可能性が高いと思われます。

4) No. 4 (I地点中央)

No. 4は木道に囲まれた葦毛湿原の中央部に設置しました。2023年7月から2024年6月まで撮影でき、現在も撮影を継続しています。

ここでは、ニホンイノシシが8月に3回、10・11月に各1回の計5回撮影されただけで、中央部分にはあまり動物が侵入していないことが判明しました。

図1 月別撮影回数(No.1~5 集計)



5) No. 5 (四の沢：L地点東)

No. 5は四の沢の上流部に設置しました。2023年7月から2024年6月まで撮影でき、現在も撮影を継続しています。四の沢は葦毛湿原の中では最も水量が多く、これまで渇水になっても枯れたことはありません。沢として流れている距離も長く、最も湿った環境です。



ニホンカモシカ：No. 3 (2023年7月20日)

No. 3 (2023年8月12日)



ニホンジカ：No. 5 (2023年10月19日)

ニホンジカ：No. 2 (2023年9月4日)



ニホンジカ：No. 5 (2023年8月12日)



ニホンイノシシ親子： No, 5 (2023年9月3日)



ニホンイノシシ： No, 3 (2023年9月7日) ニホンイノシシ： No, 5 (2023年8月19日)



ホンドタヌキ： No, 3 (2023年8月1日) ニホンイタチ： No, 5 (2023年10月18日)

ここでは、ニホンイノシシ (61回)、ニホンカモシカ (3回)、ニホンジカ (22回)、ニホンノウサギ (10回)、ヤマシギ (1回) が撮影されました。四の沢で最も多く撮影されたのはニホンイノシシで、8・9月だけで47回撮影されています。ニホンジカは4・6・8月に21回撮影されており、春と夏に集中するようです。

葦毛湿原内全体の動物出現傾向として、現状では、湿地中央部への動物の侵入は少なく、周辺部の高い所にはニホンカモシカ、低い所はニホンジカ、水分の多い沢沿いはニホンイノシシが多く来ているのが確認できました。今後は、サワギキョウのように食害が心配される植物を中心に、センサーカメラの位置を変更して食害の実体を調査したいと考えています。シカ対策のためにネットで囲う有効性は確認できましたが、湿地全体をネットで囲うのも現実的ではないので、忌避剤による効果を確認する実験を行うつもりです。